

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	高高度気球を用いた微小重力実験装置の開発	研究代表者名	橋本 樹明
-------	----------------------	--------	-------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア() 高い
- イ(×) やや高い
- ウ() やや低い
- エ() 低い

意見：
継続時間の長い(30秒程度)微小重力実験を希望する研究者は増えてきている。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア() 予定以上に進展している
- イ(×) 概ね予定どおり進展している
- ウ() やや遅れている
- エ() 遅れている

意見：
気球による実験回数を増やすことができるとよいのではないか。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア() 研究経費
- イ() 設 備
- ウ() 組 織
- エ(×) そ の 他

意見：
実際に実験をした経験をもとに、研究期間内で実現出来る目標・内容について見直しをし、最重要課題に絞ることが必要になることも考えられる。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア() 期待以上の成果をあげている
- イ(×) 概ね期待された成果をあげている
- ウ() 期待された成果をあげつつある
- エ() 期待された成果はあがっていない

意見：
最も期待すべき目標であるドラッグフリー技術の入り口にもかく到達した。しかし、困難さも認識されたことと思われる。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア (×) 有機的に連携が保たれている
イ () あまり有機的に連携が保たれていない
ウ () その他

意見：

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア (×) 効率的・効果的に使用されている
イ () あまり効率的・効果的に使用されていない
ウ () その他

意見：

6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

多くの技術開発要素があるので、1つの要素のつまずきで計画全体に決定的な影響が出ないようにしていただきたい。場合によっては、世界最高という目標のいくつかは少し下げることが必要になるかもしれないが、少なくとも、微少重力実験が安価にかつ安定的にできるシステム作りを目指して頂きたい。その観点からは、安定したドラッグフリー技術の開発が最重要課題と考えられる。微少重力実験の希望は着実に増加しており、多くの研究者に（コストも含めて）その機会が与えられることが重要である。